



スマートなしの生活なんて!?

## Owner Interview / 1

# うじきつよし

(俳優)

## smart fortwo coupé BRABUS

ボルシェ911カレラ4S(993型)オーナーとしても紹介したことのある俳優のうじきつよしさん。彼は、趣味で楽しむための空冷911十遠乗り用のランドローバー・フリーランダー十仕事の足に使うスマート・フォーツート、まさに理想的なクルマ生活を送るライセンスなクルマ好きなのである。もちろん今

回は、スマートのことについて話を聞いた。

「7~8月は海外のロケが続いたりして993とフリーランダーにはほとんど乗っていないんですよ。お恥ずかしい話なのですが、先日久しぶりにフリーランダーで出かけようとしたらバッテリーが上がっていました。もうクルマ好きの風上にも置けない

(笑)。それにしても、2年ほど前にスマートを手に入れてからは、他の2台に乗る機会はグーと少なくなりました。やはりスマートは偉大です」

写真を見て、オヤッ!と思った方が少なくないだろう。彼が所有しているのはノーマルモデルではない。04年式のフォーツート・クーペ・ブラバスである。エンジン、トランスミッション、足まわり、内外装などに“スマート・ブラバス社”(スマート社とブラバス社が設立した合弁会社)の手が入っている限定モデルだ。ちなみに04年モデルは、フォーツート・カブリオ/ロードスター/ロードスター・クーペと合わせて180台が正規輸入されているが、人気が高く新車で手に入れるのは困難を極めた。現在も、年間数十台のペースで導入されているものの、予約の受付が開始されると瞬く間に完売となる状況のようだ。

「予約を入れて1年半くらい待ちました。ブラバスにこだわったのは、男の中にある少年の心が欲したとでも言いましょうか(笑)」

### パリやミラノで見たスマートの力

彼はスマートを購入するまで、メルセデス・ベンツ 190Eやランドローバー・フリーランダーを仕事の足に使っていた。ともに味わいのある優秀な実用車だ。どんなきっかけで、スマートという選択肢が出てきたのだろうか。

「たしか、TVのロケでパリに行った時のことです。路肩の駐車スペースに縦に突っ込んである光景や、ゴミ集積コンテナの脇に横付けされているフォーツート・クーペの姿に衝撃を受けましてね。それから、ローマやミラノでも、すごい数のカブリオが街中を我が物顔で闊歩しているわけです。も



う、メルセデス・ベンツのSクラスが小さくなって走っている(笑)。ビッグセダンの肩身を狭くしてしまう小さいクルマって痛快じゃないですか。これはもう乗るしかない! と思い、けっこうあっさり決心しました」

購入から2年、いまやフォーツート・クーペ・ブラバスは、うじきさんの生活になくてはならない存在になってしまったようだ。都内はもちろんのこと、横浜や湘南あたりのロケには迷わずこのクルマのキーを持って出かける。

「ご存知のように、ドライバーとパセンジャーには充分な室内空間が用意されているじゃないですか。振り返らない限り、自分が全長わずか2.5mのクルマに乗っていることを意識させない巧みなパッケージングは見事という他ないでしょう。乗り心地が、高速安定性が云々、と酷評する人もいますが、それはホイールベースの長いビッグセダンなどと比べての話ですよ。エアコンも効くし、充分な動力性能も持っているから、僕は快適に移動できるいいクルマだと評価しています。100km/hの巡航なんて余裕ですし、けっこう力強い加速も披露してくれるんですよ」

注目のシフトチェンジは、やはりATモードではなく、ステアリングホイールの裏に設置されているパドルを使ってマニュアル操作しているようだ。そのほうがキビキビ走ってくれるから、スポーツカーのような運転の楽しさを味わえると話す。

### スマートと911の共通点

「よく考えることなのですが、クルマはひとり1台だけという法律ができれば、スマートを残すかもしれません。993カレラ4Sはプラモデル感覚で

飾っておきますが(笑)。それほど僕の生活になくしてはならない存在になってしまいました」

スマートの話をする時は目尻が下がればなしのうじきさん。彼はクルマだけではなく、ハーレーダビッドソンにも乗る。そう言えば、スマートオーナーには、大型のオートバイを楽しむ方が多い。

「いい歳をしてオートバイに乗る人って、よく言えば、子供の頃の冒険心とモノに対する純粋な気持ちを忘れていないということなのでしょう。でも、僕がそうなんです、大人になれないところがある証拠なわけ(笑)。スマートの遊び心、そして大きな高級車を笑ってしまっているような部分が、オートバイに乗る人の琴線に触れるのかもかもしれません」

そして、スマートとボルシェ911には似ている部分があるような気がするとも話す。「同じ世界観を持つクルマ」というのが、両車を所有している彼の感想だ。

「他のクルマの真似じゃなくて、独自のコンセプトをもとに、ゼロからメカニズムを構築しているじゃないですか。だからオンリー・ワンなんですよ。ボルシェ911に魅力を感じる人って、スマートも必ず理解できると思いますよ」

まさにスマートにゾクゾクのうじきさん。現在の走行距離は5400kmだが、これからどんどん距離をのぼしていくのだろう。

Text: 野田義彦 / Photo: 大沢つよし

### うじきつよし

1957年9月18日生まれ。東京都出身。“子供ばんど”のギター&ボーカルで活躍した後、89年に公開された映画「226」で熱演して話題を集め、その後は数多くの映画、TVドラマ/バラエティ、舞台などで活躍している。『UEFAチャンピオンズリーグ』(スカイパーフェクトTV! : 木曜21時~生放送)には司会として出演、また今月からスタートする『CLうじ討論』(スカイパーフェクトTV! : 毎月第一金曜23時~)にも登場。さらに、2007年新春公開予定の映画『ユメ+夜』: 第2夜に出演する。

# 柴田 充

(フリーライター)

## smart fortwo cabrio

エグリッチ、分厚めド四角、高級クルクル時計、ゼンマイオヤジ……、思わず吹き出してしまいそんな独特の単語というか、雰囲気は理解できるけれど実際どうしたことなのよ？ みたいな簡略言葉が次々に飛び出すライフスタイル誌『LEON』の時計記事。でも、よくまあこれだけヘンテコ・ワ

ードを思いつくものだ。で、どういう人が書いているのかというと、ズバリ！ この人である。柴田 充さんは『LEON』などで、時計を中心にクルマやファッションなどをテーマとする頁に寄稿する売れっ子のフリーライターだ。時計やクルマのライターというとオタクっぽい人を想像する

だろう。ところが彼は、アウトドアにも飛び出す、すごく多趣味な“ゼンマイオヤジ”なのである。クルマや大型のオートバイ、時計、オーディオを始め、ハワイアンバンド(ベース担当)、サーフィン、ダイビング……。スポーツや音楽、そしてモノに対する好奇心、それが柴田さんの柔軟な仕事スタイルにも大きな影響を与えていることは容易に想像できる。

「フリーライター稼業って、趣味の世界で経験したことがそのまま原稿のネタになったりするわけです。そういう意味ではこの仕事に向いていたのかもしれない。理屈からのめり込む理系タイプの人みたいに、オタクな感覚は一切ないんですよ。でもハマると深く入っていかなければ気がすまないから、やっぱりオタクなのか(笑)」

### ラクに乗れるチンクエチェント

クルマ選びにも彼のそんなスタイルが表れている。最初買った輸入車は22歳の頃に中古で手に入れたルノー・サンク、その後はアウトビアンキ A112アバルト、チンクエチェント、ランチア・テーマ 8.32、アルファ・ロメオ スパイダー・ヴェローチェ、フィアット・マルチプラ(先代)……。イタ・フロアのエンズーモデルがズラリと名を連ねる。

「思い返してみると、あんまりちゃんとしたクルマには乗っていないですね。すべて中古車だし、それともどちらかといえば変なクルマばかり。少なくともボルシェ911やフェラーリのV8モデルみたいなクルマ好きの王道からは外れている(笑)」

そんな彼が2000年式のスマート・カブリオを購入したのは3年ほど前だ。友人から買った時の走

行距離は7000kmだった。現在オドメーターの数字は約3万kmだから、他にアウディ・オールロードクワトロとホンダ・ビートを所有している人にしては距離をのばしていると言っている。きつと普段はスマートを使っているのだろう。

「チンクエチェントを手放してからずっと、小さいクルマが恋しかったんですよ。でも、あのクルマでいろんな苦労を経験していたし、今度は命がないかもしれないと思って(笑)。で、ラクに乗れるスマートに触手が伸びました」

それにしても、チンクエチェントの後任というのは相当な個性の持ち主でないとならないはずだ。このスマートもとんでもないオーナーのもとへやって来たものである。ところが、いっしょに生活してみると、柴田さんとスマートの相性はすごくよかったらしい。手に入れてからというもの、打ち合わせや取材に出かける時は迷わずスマート・カブリオのキーを持つようになっていったのだ。まさに彼のビジネスマンズ・エクスプレスなのである。

### 飽きない理由

「僕は比較する相手がいないほどの強烈な個性を持つクルマが好きなんです。リアに今では考えられない空冷2気筒エンジンを積んでいたり、ミドルクラスセダンなのにフェラーリ製V8がノーズに収まっていたり。きつと長く乗れるのはそういう“ひっかけり”のあるクルマなのではないでしょうか。ほら、カッコよさだけに惹かれて選ぶと、すぐに手放してしまったりする場合がありますか。毎日見ていると、結局は飽きちゃうんですね。モノのデザインって、きれい／きたないというよりも、開発者のコンセプトがどれだけ

カタチになって表れているかが肝だと思うんです。それがデザインの意味でもあるわけだし。スマートは2人乗りのシティコミューターという斬新なコンセプトがパッケージングやボディデザインに貫かれていますよね。竹を割ったような潔さがあるというか、妥協している部分がほとんどないでしょ。すごくわかりやすく個人的。だから僕は、スマートを非常に高く評価しているんです。チンクエチェントと同じくらい(笑)」

ATモードでシフトアップしていく時のガクーン感はいまだに馴染めないけれど、マニュアル操作に慣れてしまえばまったく問題ないし、初期型だけど乗り心地も大げさに騒ぐほど悪くないと話す。彼は大型のオートバイにも乗るが、「あれに比べれば、エアコンは効くし屋根は電動で閉められるし、まさに天国ですよ」と笑う。スマートに『LEON』風のキャッチコピーをつけると「ハズシ上手なちょい不良ミニ」となるのかな。そう言えば、前号の取材の時に、『LEON』初代編集長の岸田一郎さんもスマートに乗っていると話していた。このクルマ、トレンドを生み出す人たちの感性に響くのだろう。

Text: 野田義彦 / Photo: 大沢つよし

### 柴田 充

1962年2月生まれ。東京都出身。フリーライター。文具メーカーに勤務した後、広告制作会社のコピーライターに転身。その後、出版社に移籍して雑誌の編集者を経験し、フリーランスのライターとなる。現在はライフスタイル誌『LEON』(主婦と生活社)を中心に、小誌の姉妹紙『MOTO NAVI』など、多数の人気雑誌に健筆をふるっている。取材は、打ち合わせや気分転換の場に使っている横浜の海沿いにある倉庫の一角で行なった。見事にリフォームが施され、いい雰囲気空間に仕上げられている。仲間を集めて小規模なコンサートも開いているという。

### チンクエチェントの後任という大役

